

看護学生の主体的な学習を促す周辺参加型実習の構築に関する研究

坂田五月^{*,1)}、佐藤道子¹⁾、田島美穂子²⁾、三浦直子³⁾、清原恵美⁴⁾、渡辺昌子⁵⁾、吉田千浩⁶⁾

¹⁾ 聖隷クリストファー大学、²⁾ 聖隷浜松病院、³⁾ 浜松医療センター、⁴⁾ 聖隷三方原病院、

⁵⁾ 浜松市リハビリテーション病院、⁶⁾ 浜松労災病院

【はじめに】研究者らは、これまでの研究で看護基礎教育にポートフォリオを活用してみた成果や模擬患者参加型授業を導入した結果を報告してきた。これらの研究をもとに、看護学生の看護実践への主体的な参加を促す実習形態を構築する必要があると考えた。本研究では、『正統的周辺参加』の概念を取り入れた基礎看護学実習の実習形態『周辺参加型実習』を構築する。

『正統的周辺参加』とは、「学習者が熟練者の実践活動に参加はするものの、それはごく限られたレベルであり、しかも最終的な産物に対しては、ごく限られた責任しかおわないという独自の関与のあり方」であり、レイヴらが1991年に提唱した概念である。『周辺参加型実習』とは『正統的周辺参加』の概念を取り入れた実習形態であり、この研究では「看護学生が看護師の看護実践に限られたレベルで参加することを通して、自分の目で見ると感じる体験をもとに発展する学習活動」とする。

【目的】本研究の目的は、「周边的参加型実習の実習形態の構築」と「周辺参加型実習の効果の検証」を行うことである。

【方法】1. 周辺参加型実習の実習形態の構築：1) 臨地看護実習中の成功事例と問題事例の抽出：事例を抽出し、研究者間で検討する。2) 周辺参加型実習中の事故対応マニュアルを作成する。3) 看護学生が安全且つ安心して実習に参加できるように指導體制の検討、専門家会議を定期開催する。

2. 周辺参加型実習の効果の検証：1) 学生による臨地実習評価、学生が参加した実践活動の場面2011年度と比較する。2) 専門家会議の議事録、実習記録を分析対象資料とし、内容分析する。3) 他大学の研究者と意見交換する。

【結果】1. 周辺参加型実習の実習形態の構築：基礎看護学実習Ⅱ実習要項・実習記録を作成した。実習指導会議を2回(7月と3月)開催し、各実習病院の臨床指導者と指導の成功事例と課題を共有し、看護学生が安全且つ安心して実習に参加できるように指導體制について検討した。また、活水女子大学武藤雅子講師、岩手県立大学菊池和子教授らと意見交換したところ、看護学生が熟練看護師の実践活動に参加する実習形態に対して興味関心を持って頂けた。

2. 周辺参加型実習の効果の検証：臨地実習評価、および、実習記録を分析対象資料とし、質的・量的に分析した。学生が参加した看護実践の場は2012年度と2011年度で相違無かった。一方、「陰部洗浄」のように見学の機会が多いが、実施までに至らない技術項目があった。実習記録の内容分析では、実習前よりも実習後のほうが「看護師のイメージ」を表現する言語数が増えていた。

【考察】学生は周辺参加型実習で自分の目で見たと感じた体験をもとに、看護職者のイメージをより具体的に言語化しており、見たり感じたりした体験を発展させる可能性が示唆された。学生の感じる体験を深化させるためには、看護技術の見学と実施をつなぐ仕掛けが必要であり、今後の課題は、目で見たと感じる体験をより患者に近い場所で感じる体験へと発展させるための支援を検討することである。

【結論】周辺参加型実習は、学生が看護職者のイメージをより具体的な表現で言語化する活動を促す。

【学会発表の状況】第3回せいい看護学会学術集会、日本看護教育学会学術集会第22回、第23回で発表。